

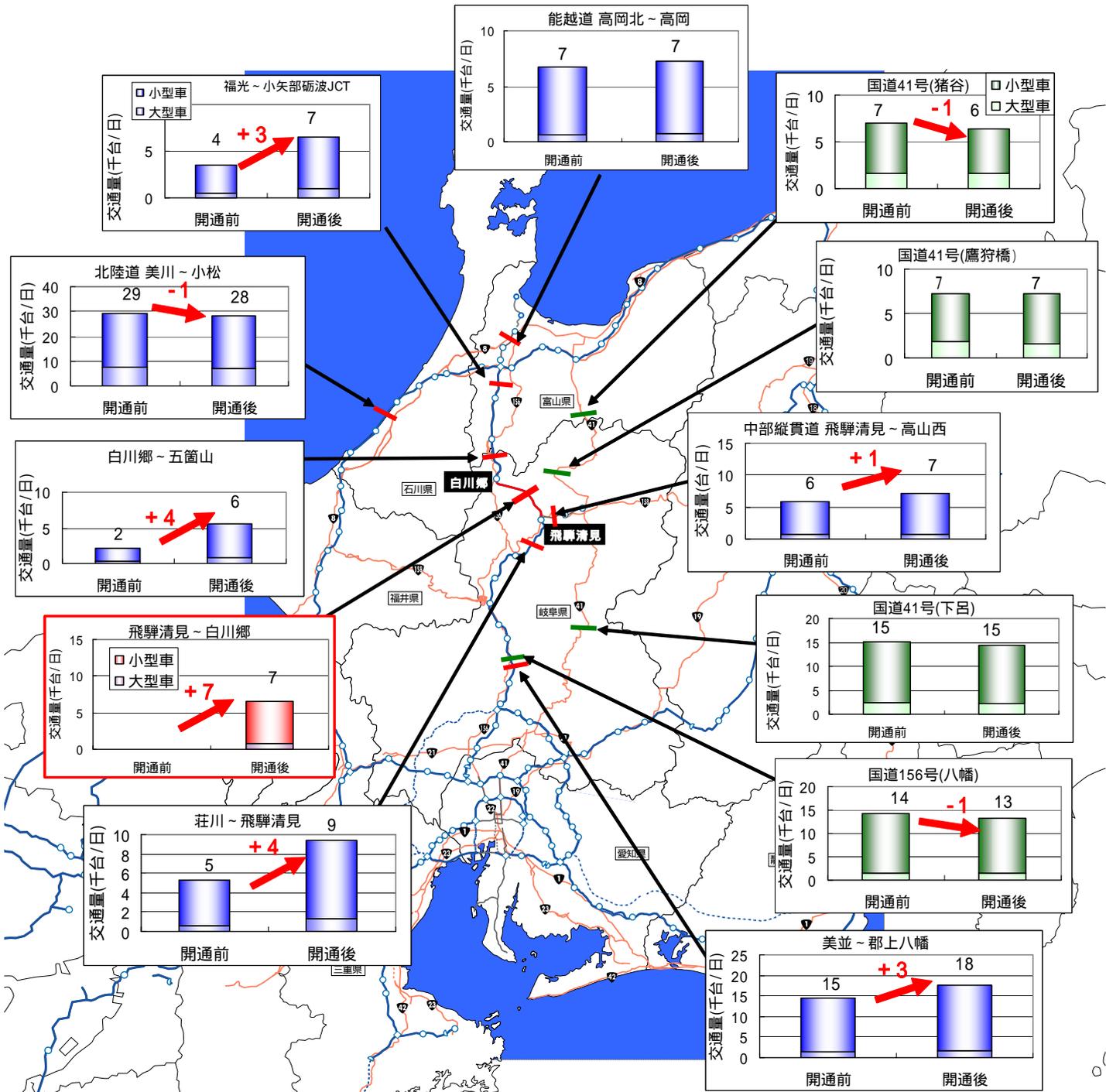
1. 交通量

1-1. 東海北陸自動車道等の周辺の道路ネットワークの交通量

1) 2月までの交通状況

- ・ 開通翌日の平成20年7月6日(日)から平成21年2月28日(土)の飛騨清見IC～白川郷IC間の平均断面交通量は約7千台/日[平日平均約5千台/日, 休日平均(土日・祝日)約9千台/日]でした。
- ・ 東海北陸自動車道と接続する中部縦貫自動車道と能越自動車道でも、開通前と比較してそれぞれ約1千台/日、及び1千台/日の交通が増加しました。

新たなネットワークにより、変わる車の流れ



交通量計測装置によるデータを速報値として記載。

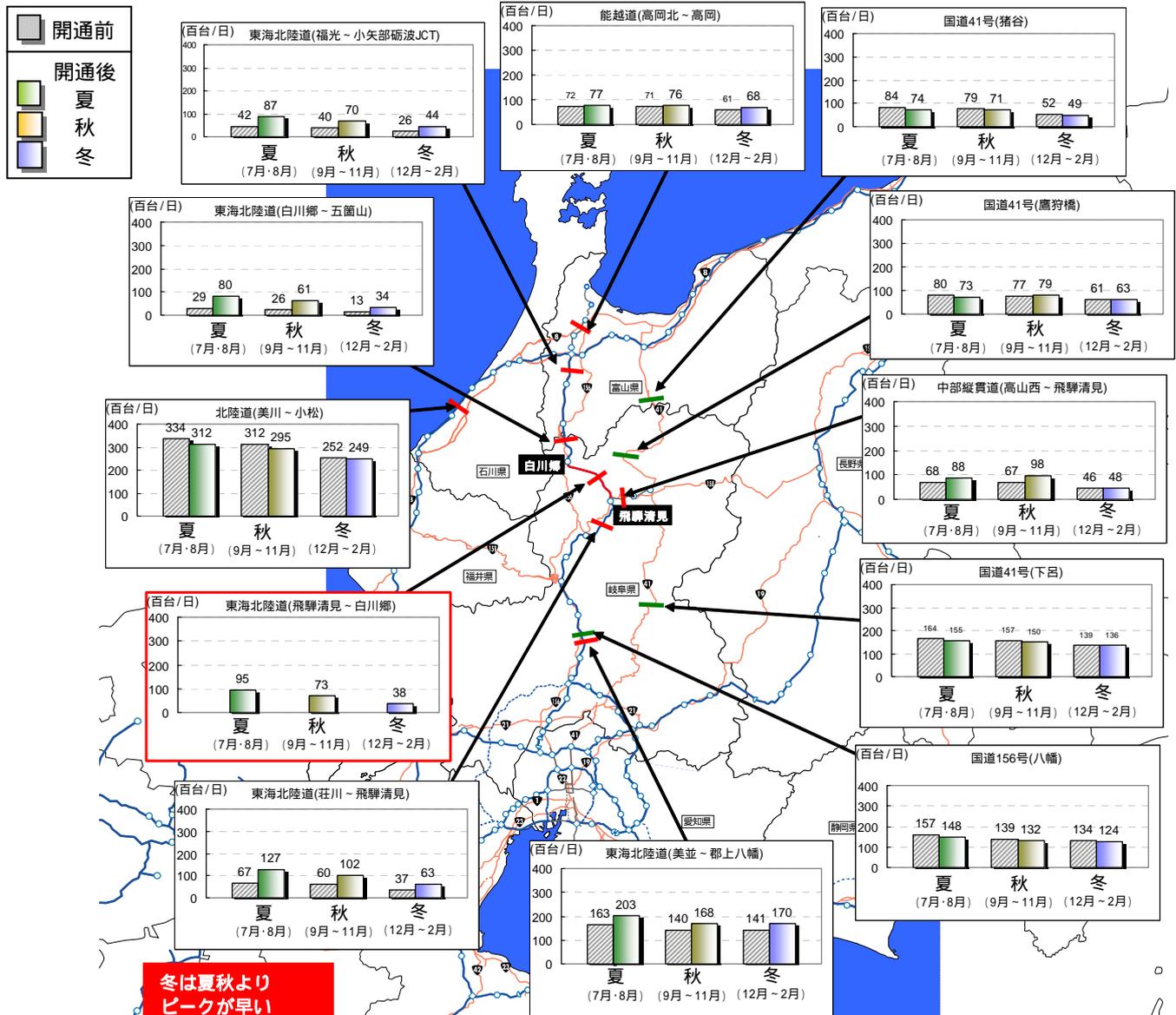
飛騨清見IC～白川郷IC 開通前は、平成19年7月8日(日)から3月1日(土)までの日平均交通量を記載。

飛騨清見IC～白川郷IC 開通後は、平成20年7月6日(日)から2月28日(土)までの日平均交通量を記載。

2) 冬季までの交通の季節変動

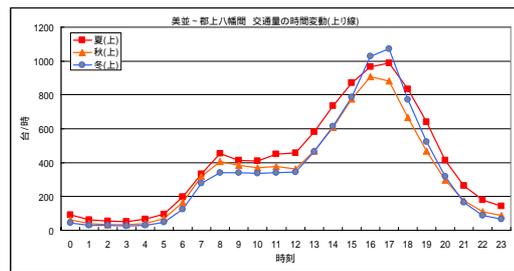
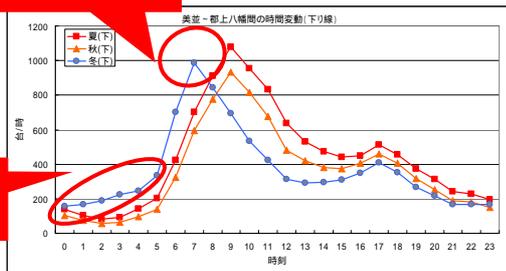
- ・観光シーズンである“夏”の交通量が最も多く、次いで“秋”の紅葉シーズン、“冬”のスキーシーズンと、東海北陸自動車道の交通量は季節変動が顕著になっています。
(東海北陸自動車道 飛騨清見～白川郷間で、夏の交通量[95百台/日]は、冬[38百台/日]の約2.5倍)
- ・東海北陸自動車道的全線開通による変化については、荘川～飛騨清見の交通量を見ると、どの季節でも前年に比べ、約2倍程度伸びています。
- ・東海地域から、奥美濃エリアのスキー場までの経路となる美並～郡上八幡(下り線:富山方面行)の時間別冬季交通量のピーク時間は、夏・秋よりも朝早く現れ、深夜の交通量も多くなっています。

交通の季節変動



冬は夏秋より
ピークが早い

夜間交通量
が多い



交通量計測装置によるデータを速報値として記載

開通前：平成19年7月8日(日)から3月1日(土)までの日平均交通量を記載。

開通後：平成20年7月6日(日)から2月28日(土)までの日平均交通量を記載。